

ID	読後の感想をお書きください	第2回研究会で島田潤一郎氏に聞いてみたい事をお書きください	何かございましたら、研究会、当日運営、今後、その他、何でも良いので、お書きください。
1	<p>本書を読み私は、自分の選択によって仕事が入と人とを繋げてくれる、生活のための手段とは全く違った役割を持つことを感じさせられました。辛いことは勿論あれど、自分の思い感じたものをそのまま形にするという、ある意味人生そのものが趣味のような仕事の形は全く新しい考えで、新鮮に感じました。私にとって仕事とは、生きるために必要なことであり、お金を稼ぐ手段に過ぎないと考えていたからです。そこに自分の思いがなくなるとも、その他趣味の時間で自分の思うようにやりたいことをすれば良いと考えていたためです。</p> <p>また、本書で何かを作り上げる上で自分の中でひとつ大きな目的を持つことの大切さを学びました。目的があることで作り上げたものに魂が宿るのだと感じます。これは個人の見解ですが、本書においてあとがきにあったように、周りと少し違った感覚や優しさを持っている息子さんへ向け、父親として経験してきたことから「こんな世の中でも大多数が進もうと考えているような狭く決まった職業以外の道もあるんだよ」という未来の選択肢を広げてあげたいという気持ちを大きく感じ、その想いに私のような学生が感化される「気持ちの連鎖」が生まれるのだと考えます。</p> <p>それは、島田さんのように「本」という媒体を通してでなくとも思いを持った人の手が加わることで様々なところで共通して行くのではないかと考えます。機械化が進んだ現在において、効率的でなくとも人が何かを作り上げることに意味があるということを改めて考え、感じさせられました。</p> <p>最後に、私は元から本を読むことが好きで、時間が空いたときによく読んでいたのですが、本書を読み島田さんの本に対する向き合い方を知ることで、本を読むことの意味や意義を考えさせられる良い機会となりました。</p>	<p>本書で書かれていた、2年連続で赤字が続く仕事が入まくいかない状況に陥ったときに、私ならその仕事を続けられないかもしれないと考えてしまうと思います。そんな状況でも、諦めず仕事を強く続けられたのは周りの方への思いも勿論あったと考えますが、その他にも何か気持ちを折らないようにするための考え方などはあったのでしょうか。</p>	<p>研究会当日に授業が入ってしまい16:40からしか参加ができないのですが、質問に対する回答を後日伺うことは可能でしょうか。</p>
2	<p>最近、身内に近い存在の死があったため個人的に共感する場面が多くありました。訃報を聞いて、信じられたなくて、どうすれば良いか分からなく、葬式に行き初めて実感し、生きるとは何だろう命は何だろうと考えていたときに、この本に出会うことができました。</p> <p>また、今私は3年生で近い将来のことを考え、選択肢が多いなかで葛藤する場面が何度もありました。ですが、「人から必要とされること」の大切さありがたさに私は気づいていなかったと感じました。</p> <p>様々な場面からみて、私はこの本に救われたなと感じています。</p>	<p>これからの自身の仕事について思い描いていること</p>	
3	<p>他人から必要とされるために仕事をするというのは新たな視点だった。人と人との繋がりが仕事に繋がるというのも再確認させられた。自分も誰かの役に立てよう頑張りたいなと思った。</p>	<p>大学主催の小説コンクールで一等賞を取ったと書かれていましたが、なぜ小説を書いてコンクールに出してみようと思ったのですか。</p>	
4	<p>仕事や働き方というものについて、率直に言葉にされていて、今の自分の仕事の想いと重ねて考えることができました。本を作る。その仕事に限らない、仕事の在り方を考えさせられました。なぜそのことをやりたいのか。漠然とした自尊心と自信を、自分のやりたいことへと昇華させるすごさと運命を感じました。</p> <p>私はいまだなぜ仕事をするのかわかりません。仕事をしなくて仕事をするといわれても首をかしげてしまいます。それさえも仕事をしなきゃいけないという風潮が作りだした楔ではないかというほどに。「仕事」にとらわれずに、「お金」にとらわれずに、より、自由に考えようと思いました。</p>	<p>仕事をするまでに挫折を感じたことはなんですか。こうして成功に導いたご自身の才能とは何だと思えますか。</p>	
5	<p>私は、仕事(活動)に疲れたとき本を読み、現実を逃避しています。しかし、現実逃避だけでなく、自分を認めるために本を読んだり、人の価値観を認めること(知ること)を求めていたのかなと思います。今回本を読んで、人と人とのつながりや自分の気持ちを大切にすることは間違っていないのだと思いました。</p>	<p>これまで出会った人の中でこの人おもしろいな、違う価値観を感じて今でも残っているコトバ等があれば教えてください！</p>	<p>頑張ります！</p>
6	<p>仕事とはなにか、働くとはどういうことかを考えることができました。P.120「仕事の核となるのは、あくまでひとりの人間の個性だ。」という言葉が心に残りました。自分がこれからどう働いていくか、生きていくをもっと考えないといけないと感じた。</p>	<p>島田さまがどのような意識で文章を選んでいるのか気になりました。すごく読みやすく、情景が伝わってくる文章だと思いました。P.97にもあるように誰かを思いつくることで出てくるものなののでしょうか。</p>	<p>遅くなってしまい申し訳ありません。質問も拙い文章ですいません、、まだしっかりと読み込んでいるわけではないので、来週中にはもう少し読み込みます！</p>
7	<p>この本を読んで、一人で出版社立ち上げ、会社の従業員も一人かもしれないですが、結局は人との関係がとても大切だと感じました。時代が変化してデジタル社会で新しいものが求められる中でも、人と人とのつながりや温かさはどの時代でも大切にされることだと思いました。資本主義で多くの情報が飛び交う社会の中ではむしろそのような人の温かさは特に貴重になってくると思いました。売り上げを上げることはもちろんですが、マーケティングの枠にとらわれない人と人との温かさは意識してつくるために、自分が把握でき、実感ができる規模で仕事をしているのが印象的でした。自分もお金を稼ぐための仕事と考えると難しいですが、自分が価値を見出せ、想いを載せてしっかりと向き合える仕事をしたいと思っています。</p>	<p>私自身も自分にしかできないことはたくさんあるからやりたいと思っていますが、その中でもどれが特に自分だけにしかできないのか選別する時に意識することはありますか？</p>	
8	<p>人と人がつながりあうこと、人を喜ばせたいと思うことはいつの時代も不変なのかもしれない。思い返せば、自分の行っている活動とか生活も、人の笑顔を活力になっていると感じた。モノやサービスが飽和している。近年はSNSの発達で色んな人とも関わられる、そのような所謂「便利」な時代だからこそ、「面と向かって、真心を持って人と関わること」が関係性を豊かにする指標の1つとして、ますます重要視されていくのかもしれないと感じた。</p>	<p>・周りの学生を見ていると「就活嫌だなあ、働きたくないなあ」とぼやいていたり、不安を抱えていたりする人が多くいます。そういった学生に対してアドバイスはありますか？</p> <p>・私自身は教職の道を志しています。島田さんがもし教師として児童や生徒に本を紹介するとしたら、どんな本を紹介しますか？ あるいは、紹介する時にどんなことに気をつけると思いますか？</p>	<p>実習により当日参加できず申し訳ございません。</p>